

中日新聞「うちの職場 美し国の働き方」 に掲載されました

堀田建設では2017年より若手社員の声で始まった「若者会議」というものがあります。

18歳から35歳の有志が毎月話し合いを行い、職場改革の提案など意見を出し合う場となっています。

若者会議で出た提案は直接社長へと届けられます。これまでも福利厚生の充実や女性が働きやすい工事現場の見直し、社員間の情報交換ツールの円滑化など若者の声が反映されています。

この活動を評価して頂き、5月5日（日）発行の中日新聞に掲載されました！！

若者会議は職場改善の為だけではなく、普段違う現場で働く同世代の仲間との交流の場、近い年代だから話せる相談の場にもなっているようです。毎年楽しい社内イベントも企画してくれています♪



亀山市の総合建設業「堀田建設」では2017年に若手社員の声で始まった「若者会議」が職場改革を手動してきた。

当初は8人から始まり、今では多い日は20人に。会議は残業時間として認められ、決まった提案は堀田誠社長に直接届けられる。

若者会議の発案で最初に導入されたのは、ジム利用などの福利厚生への充実。続いて、下着が透けないように作業服を見直したり、男女別のトイレや着替え場所を導入したりと、女性が働きやすい工事現場にする配慮も採用してきた。

今年はさらに、会社紹介のパンフレットも初めて作成。入社年数で変わっていく仕事の内容や立場なども紹介し、キャリアパスを示した。新入社員向けに全社員を写真付きで紹介する冊子も作った。

各社員が違う現場で働く建設業にあって、若者会議は同世代の交流の場としても機能している。入社3年目の岡安さんは「現場は年の離れた人が多いので、年が近い人が集まって相談もできる機会はありがたい」と話す。

こうした改革が実ってか、直近3年に入社した社員の離職率は0だ。社員の採用も以前は1人も採用できない年が多かったが、近年は毎年数人の入社が続く。

堀田社長は「若者会議の提案が、私の世代では考えが及ばないところを一気に変えてくれた。以前は各部署の縦のつながりしかなかったが、横断した横のつながりが生まれ、若い人が意見を言いやすい雰囲気になってきた」と話す。

矢倉さんは「若い世代が積極的に集まり、会社も意見を聞いてくれている」と手応えを感じつつ、先を見据える。

若者が辞めない会社をつくるには 三重の堀田建設「若者会議」で離職0に

5月5日発行 中日新聞より引用